



[ゲートボール大会20170511](#)



[ゲートボール大会](#)

5月11日伊豆市天城ドームに於いて、第28回静岡県すこやか長寿祭スポーツ・文化交流大会『すこやかシップ2017』が行われました。  
選手・役員入場、開会宣言、優勝杯返還が行われた後に、静岡県ゲートボール協会土居征夫会長より挨拶が有り、7つのコートにチームは別れていった。  
写真左は挨拶する土居会長、写真右は参加選手。



[ゲートボール大会](#)



[ゲートボール大会](#)

優勝カップと大会入賞者の賞品(写真左)。優勝カップには長い歴史が刻まれていた。第1回大会は平成2年となっていた(写真右)。ゲートボール大会はすこやか長寿祭の歴史と共に歩んできたと言える。



[ゲートボール大会](#)



[ゲートボール大会](#)

競技前にはチーム間の交流が行われていた(写真左)。ゲートボールを通して自然と仲間ができるという。これが社会参加の楽しみである。  
開会式が終わり、地域代表28チームが7つコートに分かれ大会が始まった。天城ドームはゲートボール公認コートである。ソフトボールとゲートボールを両立させる為に工夫を凝らしたと土居会長が説明してくれました。



[ゲートボール大会](#)



[ゲートボール大会](#)

参加選手に話を聞くとゲートボールの奥深さ伝わってくる。10秒と短い時間で打たないといけないので、先を読む必要が有る。そして素早くボール打つところに移動しないとイケない。ボール拾うための動きはスクワット同じで脚力が必要となる。

さらに、高得点を得るにはチームで戦略が必要で有り、カーリング、ペタンクの競技と共通するところがあると言う。頭を使う為に脳が活性化する。ゲームとしての面白さがある。当然強くなるためには、練習して技量も上げないとイケない。結果として、体も脳も健康につながる。写真左右はゲーム中の選手とサポートするチームメンバー。



[ゲートボール大会](#)



[ゲートボール大会](#)

今大会の最高齢者は岡田茂さん(92才)。写真左のゼッケン9。プレーを見ていると年齢を感じさせない(写真右)。動きも速く、腰も曲がっていない。

岡田さんに元気の秘訣を伺いました。

①まず家を出てゲートボールに行く。②60代の人と会話をする。③ストレスを溜めない。④食べ過ぎに注意する。⑤月に一回病院に行き、血圧を測定し管理する。

グランドゴルフもやっており、社会参加して年代を越えて多くの人と交流する事が大事だと、そしてゲートボールは頭を使うので、早く始めた方が良い。ルールをよく理解してやれば、これほど面白いスポーツはないと魅力を語ってくれました。



[ゲートボール大会](#)



[ゲートボール大会](#)

戦略としてライン沿いに味方のボール置チーム(写真左)。そして、ゲーム状況を把握する機器を身につけている。(写真右)



[ゲートボール大会](#)



[ゲートボール大会](#)

試合後お互いの健闘を称え合う(写真左)。リーグ戦の2試合が終わりチームの仲間とお弁当を食べる。(写真右)



[ゲートボール大会](#)



[ゲートボール大会](#)

午前中2試合を終え、昼食をとりながら一休み。(写真左右)



[ゲートボール大会](#)



[ゲートボール大会](#)

リーグ戦を3試合行い、勝率、得失点差で菊川ドラゴンチームが優勝(写真左右)



[ゲートボール大会](#)



[ゲートボール大会](#)

準優勝の浜北チーム(写真左右)。2チームを除くブロック優勝は第2コート藤枝チーム、第3コートはいなさ昇竜梅チーム、第4コートは修善寺チーム、第6コートは金太郎チーム、第7コートは岡田さんがいた掛川チームでした。

閉会式で土居会長より、自宅に無事帰宅するまで『すこやかシップ2017』は終わりでは有りませんと帰りの移動に対する心配りがありました。

取材；東部・田方地区生きがい特派員

加藤 孝